

2023(令和5)年度 入学試験問題

東大・医進クラス 2月1日 AM

国語

注意

- (1) 指示があるまで表紙を開かないこと。
- (2) 問題および解答用紙の両方に受験番号・座席番号を記入すること。
- (3) 声を出して読まないこと。
- (4) 解答は全て解答用紙の所定の欄らんに記入すること。

受験番号	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
座席番号	<input type="text"/>				

解答用紙の受験番号欄らんは、1マスに1つずつ数字を記入してください。

※問いに字数指定がある場合は、句読点なども一字として数えます。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

帰りのホームルーム前、兼家さんが立ちあがって訴えた。

「だれか、クラス看板の製作を手伝ってくれませんか？」

クラス看板は応援席の前に立てる看板で、来賓者によって美術点がつけられる。看板だけでも最優秀賞と優秀賞が表彰されるうえ、競技で獲得した点数に加点されるから、クラスの勝利に関わってくる。ぼくたちのクラスでは美術部の兼家さんが製作を担当していたが、あと二日では仕上げが足りないという。

「なんで間に合うように、計画的にやらないんだよ」

岡本がつぶやいたのを、及川さんは聞き逃さなかった。

「その言い方はないでしょ」

「ひとり言に、いちいち取りあうなよ」

「はあっ？」

そのとき、ヨワキーが教室に入ってきた。

及川さんが、ガタンツと立ちあがる。

「先生。わたし、ムカデ競争のリーダーを降ります。もう、やってられません」

ヨワキーは少し間をあけて、うんと、うなずいた。

「及川さん、がんばりすぎるほど、がんばっていますからね。きついですよね」

言葉を区切って、ふーっと息をつく。

「みなさん、新しい環境でとてもがんばってききましたから、そろそろ疲れがピークに達するころだろうと思っていました。そんななかで

及川さんや岡本さんはクラスの責任を負うのですから、なおのこときついでしょう」

岡本？ 岡本はいまの状況をつくった元凶だつて。ヨワキーはなにか勘ちがいでいるんじゃないか？

疑問を持ったのはぼくだけじゃなかったようで、ほかにも首をかしげた人がちらほら見えた。

「運動会でクラス対抗競技を行うのは、勝利が目的ではありません。団体競技では人間関係の摩擦や衝突がつきものですが、その経験が成長につながることはありません。でも、クラス全員がはたらいてやりたくないというなら、棄権したつていいんです。私から校長に申しあげましょう」

① は？ ヨワキー、なに言っちゃつてんだよ。

みんなが、ざわついた。

「マジかよ」

「そんなこと、できんの？」

「そしたら、うちのクラスは総合優勝も狙えないってことだよね？」

「個人競技だけ？ 出番少なくて、つまんなーい」

ぼそぼそと話す声が聞こえる。

ぼくは、みんなとはちがう意味で心配になった。

ヨワキー、そんな勝手なことをしたら、ますますウエッティーににらまれるんじゃないの？

すると、菊池さんが「あの」と、手をあげた。

「ここまで引っぱってくれたのは、菜月……及川さんなので、及川さんが降りるなら、わたしは競技に出なくていいと思います。でも、棄権して一番責任を感じるのは、及川さんだろうと思うんです。及川さんの気持ちが決まるまで、棄権するかどうかの決定は、待つてもらえませんか？」

ヨワキーがうなずき、みんなに問いかけた。

「ほかに意見はありますか？」

だれも、なにも言わない。及川さんはだまって、机に目を落としていた。

「では、返事を待ちます。なにか言いたいことがあるなら、個別に聞きます」

「先生、明日の朝練はどうなるんですか？」

だれかが聞くと、ヨワキーはメガネを押しあげた。

「a」

また、ざわつく。

ぼくは、明日はピリピリした空気から逃れられると、ほっとした。

翌朝、ぼくは朝練と同じ七時半に登校した。当番の水やりをする前に、給食室脇の挿し芽を見ようと思ったからだ。こここのところ運動会の練習ばかりで世話をしていなかったし、昨日も委員会活動がなかったから気になった。

正門のペントラスとペチュニアは、だいぶ元気になっていた。家から持ってきた剪定バサミで咲き終わった花を切りながら、様子を見る。奥のペントラスは上に伸び、手前のペチュニアは葉が増えて横に広がり、花数も増えていた。ピンク、青紫、白がやさしく目に映る。

なんだろう、心の中がふわふわしたものに満ちて、ほほ笑みたくなるこの気持ち。花をかわいと思うなんて、ふとまゆセンパイに毒されたかな。

『ぼくんじ、ヒュヒュー！ ぼくんじ、ヒュヒュー！ ぼくんじ、ほーていええーいとお♪』

ふとまゆセンチパイの歌が頭の中で鳴る。ふっと鼻息がマスクに当たり、ほおの筋肉が動くのを感じた。

そういえば、笑ったの、ひさしぶりかもしれない。花のおかげで、張りつめていた気持ち少しゆるんだのかな。

ぼくは頭の中でふとまゆセンチパイの歌をリピートしながら、西棟の角を曲がった。

「あ……」

しゃがんで挿し芽を見ていたヨワキーが、顔を上げた。

「おはようございます。木下さん、早いですね」

「あ、はい。挿し芽を見ようと思って……」

ヨワキーが、挿し芽をつまんだ。

「根が張ってますね。そろそろ花壇に植えかえられますよ」

「そうですか」

ぼくはヨワキーのとなりにしゃがんだ。ヨワキーが、ぼくの顔を見る。

「木下さんは、大丈夫ですか？」

「は？」

マスクをしているから、体調を心配されたのだろうか？

ヨワキーは挿し芽に目を落とすと、ピニールポットの土を人さし指で触った。

「安田先生が木下さんのこと、気にしました。ちよつと疲れているんじゃないかって。中一ギャップといって、小学校とのちがいか、

いろいろなことについていけなくなる生徒がいるので、安田先生も心配しているんです」

え……。

ぼくは言葉につまった。まさか安田先生がぼくを気にかけているなんて、思いもしなかった。単にきびしいだけの生活指導の先生ではな

いのか？

「はあ、まあ、大丈夫です」

当たり前さわりのない返事だけど、うそではなかった。きつぱり元気とは言えないけど、枯れるほどダメなわけじゃない。

ヨワキーがほほ笑んだ。

「そうですよね。本当にダメなときは自分のことで精一杯で、植物まで気が回らないですよね」

ぼくは、はっとした。

確かにそうかもしれない。一番しんどかったときは自分だけが不幸でつらい気がして、ほかのことまで思いいたらなかった……。

「でも、つらいと思うことがあつたら、すぐに相談してください。問題は長引くと複雑になります。早めに対処したほうが、解決しやすいものです」

「はい」

ぼくが答えると、ヨワキーはパツパツと手をはたいて立ちあがった。

「今日は夕方から雨になるようですよ。土曜日は曇りの予報ですが、運動会にはちよいどいい天気です」  
立ち去ろうとしたヨワキーに、ぼくは思わず聞いていた。

「あの、ムカデ競争はどうなるのでしょうか？」

ヨワキーがふり返って、メガネを押しあげた。

「まだわかりません」

ぼくの目が不安そうに見えたのか、ヨワキーは大丈夫というようにうなずいた。

「栽培委員会を担当するようになって、<sup>③</sup>園芸と教育は似ているなあと思つたんです」  
にこにこしながら、言葉が続ける。

「植物は水や肥料をやりすぎると、枯れてダメになる。毎日よく観察して、おかしいと思つたときに手をかけるといいそうです。ムカデ競争のもめごとは、天地返しのようなものでしょう。きつと空気が入れかわって、いい土になる。そう私は信じています」

ぼくは「はあ」と、気の抜けた息をもらした。

ヨワキーはやっぱり先生だと思つた。見た目は大学生みたいだし、ベテランの先生にしかられたりもするけど、自分なりの信念を持つて  
いるんだ。勇気つて名前、実はびつたりなのかもしれない。ヨワキーなんて勝手に呼んで、悪かつたな。

「今日は水やりは、必要なさそうですね」

<sup>④</sup>ヨワキー……じゃなくて早川先生が去つたあと、ぼくは挿し芽の土を触つた。

しっとり湿つている。昨日、だれかが水をやつたんだ。

ぼくが知らないだけで、だれかがだれかを見守つていて、必要なときに手を差しのべているのかもしれない。

孤立していた五年生のとき、ある男子とたまに目が合った。気の毒そうにぼくを見る表情が嫌で、すぐに目をそらしたけど、もしかしたらぼくを心配してくれていたのかもしれない。

いまとなつては確かめようもないけど、ぼくが感じたり、思つたりしたことだけがすべてじゃないんだろうな。

ぼくは指先についた土を払つて、立ちあがった。

(注) 天地返し——土の上下の層を入れ替えること。

(ささきあり『天地ダイアリー』による)

問一 〜〜線A〜Cの本文中の意味として最も適切なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

A 首をかしげた

ア 深くうなずいた

イ あたりを見回した

ウ 不満を抱いた

エ 疑わしく思った

B 言葉につまった

ア 声が出せなくなった

イ 何と言ってよいか困った

ウ 発言しかけて終わった

エ あえて返答しなかった

C 気が回らない

ア 好きになることができない

イ 注意が行き届かない

ウ 世話や手配が十分でない

エ 時間が足りない

問二 —— 線①「は？ ヨワキー、なに言っちゃってんだよ。」とありますが、「ぼく」がそのように思ったのはどうしてですか。最も適切  
なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 若い担任が校長先生に相談したところで運動会の参加競技を変えることなどできないから。
- イ 運動会は個人競技とクラス看板の得点だけで総合優勝を狙うことが非常に難しいから。
- ウ クラス対抗競技を棄権するという重要なことを他の先生に相談せずに進めようとしているから。
- エ 個人競技だけでは運動会に出場できる競技の数が限られてしまい面白味が減ってしまうから。

問三 

a
---

 に入るものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア ムカデ競争は棄権します
- イ 摩擦や衝突など関係ありません。やります
- ウ 及川さんと岡本さんで決めてください
- エ 明日は、休みにします

問四 —— 線②「花のおかげで、張りつめていた気持ちが少しゆるんだのかな。」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちについて本  
文全体の内容をふまえて説明しなさい。

問五 ——線③「園芸と教育は似ているなあ」とありますが、ヨワキーは園芸と教育のどのような点が似ているのですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 園芸が手を出しすぎるとだめになるのと同じく、教育もよく見守り必要なときに適切な対応をするのが良いという点。
- イ 農地で天地返しをして土を入れ替えるのと同じく、教育もクラス内でもめぐりが起きた方が良いクラスになるという点。
- ウ 花壇でさまざまな色のペンタスとペチュニアを育てるように、クラスでもいろいろな個性をもった生徒を育てるという点。
- エ 植物が他から水や養分をもらうように、生徒たちも授業や行事の練習を通して学びを得ながら成長していくという点。

問六 ——線④「ヨワキー……じゃなくて早川先生」とありますが、「ぼく」が「早川先生」と言い直したのはどうしてですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア これまで若くて頼りない弱気な先生だと思っていたが、実際は心のなかに強さを持った先生だと改めて気がついたから。
- イ 初めてゆつくり会話を交わしたが、大学生には出てこないような深い考えに裏打ちされた発言に感動したから。
- ウ 安田先生が自分を心配していることを伝えてくれて、ベテランの先生とも対等に話をしてることがわかったから。
- エ 自分がつらいと思っていることを察してくれて、厳しい先生と異なり自分の味方になってくれる先生だと思えたから。

問七 本文中の「ぼく」を説明したものととして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 「疑問を持ったのはぼくだけじゃなかったようで」や「ぼくは、みんなとはちがう意味で心配になった」など、自分とクラスのみんなの意見が一致しているかどうかを非常に気にかけており、常に周囲を観察している。
- イ 「ぼくは頭の中でふとまゆセンパイの歌をリピートしながら」とあるように、以前聴いたふとまゆセンパイの陽気で楽しい歌の印象が強すぎて頭から離れず、花を見るとその歌を自然と思い出すようになってしまっている。
- ウ 「一番しんどかったときは自分だけが不幸でつらい気がして」というのは「孤立していた五年生のとき」を指しており、その時からずっとクラスの人たちのことを信用できず、みんなが発言しても自分は発言できずにいる。
- エ 「だれかが水をやったんだ」と植物への水やりに気づいたことから、自分が感じていることだけがすべてではなく、これまでも知らないところで自分を見守り心配してくれる存在がいた可能性に気づきはじめている。



【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

その後ぼくは、「日本国際ボランティアセンター（JVC）」について、長年海外の人たちを支援している開発NGO（この「開発」っていうのはブルドーザーでガーッと壊すイメージがあるけど、本来はその人・地域の能力を開き、発展させる意味だ）の理事になった。海外のことはよく分かってないのにね、なぜか理事を頼まれた。そこでいろいろ学んだんだ。理事になってから学ぶっていうのもおかしな話だ  
けど。

そこで起きたのが「これまで続けてきた里親制度をやめる」という話。里親に参加してきて、さらに疑問を感じはじめていたぼくとしては、<sup>①</sup>JVCがなぜこの制度をやめようと判断したのか、興味津々だった。JVCではタイのオンヌットスラムに住民向け図書館を設置し、不良になりかけた子どもたちを集めるボクシング教室を開き、さらに里親制度を実現してきた。

ところがこの里親制度のために、日本から里親が訪ねてきて、こっそりとその子だけにプレゼントしたりするので不公平が助長されているというのだ。

JVCとしては、現実には不公平が起きないように、里親からの資金は地域コミュニティ全体に配分され、そこにいる子どもたちにもまんべんなく届くようにしていた。里親には自分の里子から手紙が届くが、実際にはその子にだけおカネが届いているのではない。

しかし、その通り説明しても里親は納得しない。里親は自分の里子だけを幸せにしたいものなのだ。しかも日本人は多くの場合、相対的に幸せを判断する。そこにいる子どもたちの中で、自分の里子を一番幸せにしたくなってしまうのだ。ぼくだって、どうしても自分の子にだけクリスマスプレゼントを贈ったり、せめて日本社会で当たり前のレベルまでは生活を引き上げたいと願っていた。

担当者いわく、「里子にだけ資金が届くように見せてきたこともあったが、事実と違う見せ方をすることは、やはり避けたい。しかし、折りを見てコミュニティ全体に渡しているのだと伝えても、どうしても里親は自分の里子にだけ目がいつってしまうのだ。里親制度を続ければ、資金が集まることはわかっている。それでも現地で不公平なことが起きたりするのはイヤだ」と。

みんなが自分の里子だけひいきしていたら、現地で不公平が生まれて差別が助長される。彼らの生活の基盤であるコミュニティを崩壊させてしまうだろう。いろいろ質問した結果、ぼくも里親制度をなくしていくことに賛成した。

なんだか日本社会の不平等観をそのまま持つていつているようではないか。「自分の子どもだけは幸せに、他の子と違う教育を」というのは。コミュニティ全体が幸せにならないと、コミュニティそのものが破綻してしまう。助け合っているからなんとか生きていられるのに、助け合えなくなったらどうなってしまうだろうか。

こうしたことで、現場の職員は悩むのだ。<sup>a</sup>してほしいから支援している。ところが支援に甘えて働かない子どもが出てきたり、コミュニティを崩壊させてしまったたりしかねない。支援することが、かえって自立を妨げてしまうことすらある。NGOの世界では、こうしたときにすぐ<sup>b</sup>を改める。この態度には感心した。

途上国に出かけると、街角で「ワンダラー（1\$）」と叫びながら絵はがきなどを売る子どもたちに出会う。「おカネを稼いで学校に通りたいのだ」と。自分もまだ小さいのに、もっと小さな赤ん坊を抱えながらけなげに働く子どもも見かける。すると、どうしても買ってやりたくなる。日本にいる自分の子どもより、はるかにけなげではないか。

しかし実際には、その子どもたちの収入はとても大きい。大人たちが必死に働いて1日1ドルという世界で、子どもたちが「ワンダラー」の絵はがきを売ると、元締め（もとじ）の取り分を含めても約半分が利益になる。元締めがギャングでなければ、その子が数セットの絵はがきを売っただけで、軽く親の収入を超えてしまう。ときに親は、働くのがイヤになってしまう。自分の子どもの収入のほうが大きいのだから。そうになると彼らが自分で言っている通り、働かないと学校に行けなくなる。

② その世界にはその世界のおきてがある。こちらが善意のつもりでいいことをしていても、それが善意のままに通るとは限らないのだ。

ぼくも古着を途上国に送ったりした。市役所に勤めていたときは、担当していた放置自転車のセクションから自転車を途上国に届ける活動を手伝ったこともある。ケニヤに行ったときのことだ。市場に溢れている古着は、日本からのものばかりだった。その一方で、ケニヤが工業化していくのに不可欠な軽工業は発達していなかった。「途上国」という言葉を正確に言うと、「工業発展途上国」という。工業化して高く売れる工業製品を売りたいのに、工業化できていない国を「遅れている国」という意味を込めて「工業発展途上国」と呼ぶのだ。

では工業製品を輸出できない国は何を売るか。紙の原料になる木材や、天然ゴム、スナック菓子の揚げ油や洗剤などに使われるやし油、コーヒー、紅茶、綿花、バナナやパイナップルなどの果物、  
I 原料 ③ しかない。しかもそれらの原料の国際価格はとても安く、作るのにかかった費用すら回収できないことも多いのだ。

だから彼らはせめて工業化できれば、そんな安い原料を輸出せずすむのだから、なんとか工業化を進めたい、と思っている。  
II 先進国から古着が送られ、せっかくの繊維工業がつぶれる。繊維を作る仕事は代表的な「軽工業」で、それが工業化の第一歩になっている。本当に儲かる「重工業」に進めていくためには、順序が必要だからだ。しかしその軽工業が、先進国から援助されてきた古着に押しつぶされることがある。自転車屋だって地域の大切な仕事だ。しかし大量に送られてくる中古自転車があれば、誰も直して使おうとは思わなくなってしまう。その結果、「工業発展途上国」に押しやられたままになるのだ。

ただし、そうしたものを送ることが必要なこともある。寒い外に放り出され、テントすらなく寒空に凍えながら朝を待つ暮らし。アメリカが襲いかかった2001年のアフガニスタンは、まさにそんな状態になっていた。  
III 相手の状態を知ることがまず大切なのだ。

自分の善意を見せつけるのではなくて。そう、ボランティアの経験値は、いかに相手の状態を思いやることができるか、ということなのだ。

（田中優『幸せを届けるボランティア 不幸を招くボランティア』による）

問一 I Ⅲ に入る語として最も適切なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

ア なぜなら    イ むしろ    ウ だから    エ つまり    オ しかし

問二 — 線①「JVCがなぜこの制度をやめようと判断したのか、興味津々だった。」について、次の問いに答えなさい。

(i) 「この制度」とは何の制度ですか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

(ii) JVCが「この制度」をやめようと判断したのは、どうしてですか。次の文を完成させる形で、わかりやすく説明しなさい。

里親が 1 (十五字以内) と考え、 2 (二十字以内) ため、 3 (十五字以内) されてしまうから。

(iii) 筆者が「興味津々」だったのはどうしてですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア コミュニティを幸せにするための制度であるものの、筆者も制度に対して疑問を感じており、中止の理由を知りたかったから。

イ 海外のことがよくわからない状態でJVCの理事になってしまい、早急にいろいろ学ばなければならない立場だったから。

ウ 先進国に住む日本人として途上国の幸せを願っており、コミュニティを崩壊させ差別や不幸を招く状態を早急に改善したかったから。

エ JVCの支援により生きている子どもたちがいるなかで、制度を中止する提案には納得が行かず、制度を続けたいと考えたから。

問三 

a
・
b

 に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア a…行動      b…生活
- イ a…選択せんたく      b…習慣
- ウ a…自立      b…行動
- エ a…生活      b…教育

問四 — 線② 「その世界にはその世界のおきてがある。」とありますが、同じような意味を表すことわざとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア すべての道はローマに通ず
- イ 百聞は一見にしかず
- ウ 二階から目撃
- エ 郷に入つては郷に従え

問五 — 線③ 「原料」しかない。」とありますが、途上国にとって「原料」しかない状態の何が問題なのですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 高く売れる工業製品を作ることができないので原料を輸出するのだが、輸出しても十分な利益を得られないこと。
- イ 先進国が求めているのは価値の高い工業製品であるため加工を要する原料は必要とされず、買い手がつかないこと。
- ウ 自国にある大量の原料の輸出に労働力が割かれてしまい、工業化するために必要な労働力が失われてしまうこと。
- エ 工業化による環境破壊を防ぐために、途上国は豊富な原料の輸出に専念するように先進国から押しつけられること。

問六 ———線④ 「工業発展途上国」に押しやられたままになる」とありますが、そのような状態が続くのはどうしてですか。「古着」の例を用いて、「工業化が進まないから。」につながる形でわかりやすく説明しなさい。

問七 次のア～オについて、本文の内容と合うものにはA、合わないものにはBを書きなさい。

ア JVCがタイで自分たちの続けてきた活動が実を結んでいないとわかり活動をすべて休止したことに、筆者は感心している。

イ JVCの活動方針の変更は日本の里親から理解を得ることができず、結果的にはコミュニティの崩壊を招いてしまった。

ウ 1ドルの価値が国や地域によって異なるように、コミュニティにはそれぞれ違いがあり、自分たちの価値観がそのまま通じるとは限らない。

エ 工業発展途上国は善意の寄付に頼り切った結果、自力での発展を進められなくなったので、途上国への寄付はやめるべきである。  
オ ボランティアの姿勢で重要なのは善意を押しつけるのではなく、相手の状態をよく知り、本当に必要な支援をすることである。

【三】 次の問いに答えなさい。

問一 次の文の「だ」と同じ使い方をしているものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

姉の好きな食べ物はパンケーキだ。

ア 彼はとても嬉しそうだ。

イ 放課後の教室は静かだ。

ウ 私の夢は医者になることだ。

エ 今月は本を十冊読んだ。

オ きつとうまくいくだろう。

問二 次の文の主語、述語を一文節で書き抜いて答えなさい。

ある夏の日の朝、僕は大会で良い結果を出せると思った。

問三 次の□にア～オのいずれかを入れてことわざ・慣用句を完成させるとき、一度も使わないものを一つ選び、記号で答えなさい。

一を聞いて□を知る

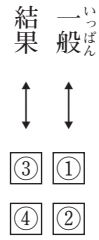
石の上にも□年

□寸先は闇

□害あって一利なし

ア 千 イ 百 ウ 十 エ 三 オ 一

問四 次の□にア～コのいずれかを入れて対義語を完成させるとき、①～④に入るものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。



語群

ア 殊 イ 原 ウ 必 エ 感 オ 無  
カ 因 キ 節 ク 正 ケ 然 コ 特

問五 次のア～エの文の順序を整えて意味の続きがはつきりした文章にするには、どのような順序にすればよいですか。はじめから順に記号で答えなさい。

ア 星占いの結果に一喜一憂するのも悪くありませんが、たまには星空を観察して遠い昔に思いをさせてみてはいかがでしょうか。  
イ 羊や牛などの動物、へびつかいなどの人、琴や天秤といった物まで、実に様々な星座が考えられました。  
ウ 一年を通して夜空には数多くの星が輝いていますが、みなさんは夜空を見上げることがあるでしょうか。  
エ 占いに使われることも多い星座は、約五千年前にメソポタミア地方の羊飼いたちが星空を眺めて星々を線で結び、いろいろなものに見立てたことよって生まれたといわれています。

【四】 次の①～⑩について、――線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 神前で身を清める。
- ② 都内の家賃を調査する。
- ③ 乳酸飲料を飲む。
- ④ 積極的に行動する。
- ⑤ 強健な肉体をしている。
- ⑥ 室内をアタタめる。
- ⑦ 自由とハクアイをモットーとする。
- ⑧ 作家のコウエンを聴きに行く。
- ⑨ 小さい時からエイサイ教育をする。
- ⑩ 日本セイフの取り組みをまとめる。





# 解答用紙

2023  
(令和5)年度

国語  
東大・医進クラス  
2月1日 AM

二

問一	A <sub>2</sub>
	工
	B <sub>2</sub>
	イ
	C <sub>2</sub>
	イ
問二 <sub>4</sub>	ウ
問三 <sub>4</sub>	工

受験番号	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
座席番号	<input type="text"/>				
得点	<input type="text"/>				

問四<sub>8</sub>  
運動会をめぐってクラスの雰囲気が悪くなり緊張していたが、正門の花とふとまゆセンパイの歌を思い出して心がなごみ、緊張感がほぐれている。

問五 <sub>4</sub>	ア
問六 <sub>4</sub>	ア
問七 <sub>4</sub>	工

二

問一	I <sub>2</sub>
	工
	II <sub>2</sub>
	才
	III <sub>2</sub>
	ウ

問二	(i) <sub>2</sub>	里親制度
	2(ii) <sub>2</sub>	里子にこっ
	3(ii) <sub>2</sub>	不公平がほ
		まわって差別が助長
		自分の里子だけを幸せにしたい
		たりする
	(iii) <sub>3</sub>	ア

問三 <sub>3</sub>	ウ
問四 <sub>3</sub>	工
問五 <sub>3</sub>	ア

問六<sub>5</sub>  
先進国から途上国に古着が送られてくると送られた途上国の繊維工業が発展せず  
工業化が進まないから。

問七	ア <sub>1</sub>
	B
	イ <sub>1</sub>
	B
	ウ <sub>1</sub>
	A
	エ <sub>1</sub>
	B
	オ <sub>1</sub>
	A

三

問一 <sub>4</sub>	ウ
問二主語 <sub>2</sub>	僕は
述語 <sub>2</sub>	思った
問三 <sub>4</sub>	ア

問四	①	コ					
	②	ア					
	③	イ					
	④	カ					
問五 <sub>4</sub>	ウ	↓	エ	↓	イ	↓	ア

四

⑥	暖める	①	ちよめる
⑦	博愛	②	やちん
⑧	講演	③	にゅうさん
⑨	英才	④	せっきょく
⑩	政府	⑤	きょうけん